

安定した仕事に就くために

— 寡婦の手記 —

労働省では、就業を希望する寡婦の方々のために職業訓練・職業相談等の就業援助対策に努めておりますが、この度、その一層の促進に資するため、技能・資格を身につけて仕事に活かして働いておられる寡婦の方々に、技能・資格を取得された間の御苦労などについて手記を書いていただきました。

就業を希望する寡婦の方々が、これらの経験から多くのことを学ばれ、より安定した仕事に就かれることを望みます。

労働省婦人少年局

職業訓練を受けての感想

〔29才 会計事務員〕

職業訓練校のことを知ったのは53年の7月でした。何の資格も特技も持たず、子供と二人、これからどうやって暮らしてゆこうかと思い悩んでいた私は、すぐに職業安定所に出かけ、寡婦であれば雇用保険を受給していなくても入校できるときき、早速申し込みました。

8月に入り入校が決まった時はホッとしたものの、次は子供を預ってくれる所を探さなくてはなりませんでした。公立の保育所には空きがなく困っていたところ、姉の友人から市内に私設のベビーセンターがあるときき、あちこち走り回りやっと一軒のベビーセンターに預ってもらえることになりました。学校が始まる前に慣れていてくれるようにと思い、8月から預けることにしたものの、今まで一度も親の側をはなれたことのなかった子供には大変な経験だったらしく、次の日には熱をだしてしまいました。そうこうするうちにハシカにかかった（ ）結局、8月中は4、5日しか預けられず、それでも月2万円の保育料に変わりはなく、無収入の私には大変な負担でした。

毎朝、子供を預けに行く度に泣かれると、まだ2歳にもならないから無理もないと思い、私まで涙がでて、それをこらえる為にバス通りまで走ったものでした。

しかし、そんな中でも学校での生活は楽しいものでした。簿記のボの字も知らなかった私には毎日習うことが珍らしく、面白く、10年前にこのくらい勉強が好きだったと後悔したりもしました。クラスメートも私の両親くらいの年代から、弟妹くらいの人達まで和気あいあいとなごやかなもので、仕事仲間とはまたちがい、学生時代に戻ったような気分でした。しかし、学校に試験はつきもので、ここでも検定試験

という関門が待っていました。しかし、何とかパスすることができ、これも先生方のお教えのたまものと今も深く感謝しています。

最後の検定が終わった翌日から、今の税理士事務所に勤め始めたんですが、最初はわからないことばかりでずいぶんとまどいました。初めて聞く言葉ばかりで、何がどうなっているのかさっぱりわからず、学校で習ったことが役に立たないのです。それもそのはずで、私は習ったことにこだわりすぎていたのです。実務はすべて基礎の応用だと気づいた時、目からウロコが落ちるような思いでした。学校であれだけ先生が基礎がすべてだと教えてくださった意味がやっとわかったのです。3カ月という限られた訓練期間では、基礎をマスターするだけで精一杯でしたが、それが結果的には良かったのかもしれません。

最初は右も左もわからなかった私も、良き上司、先輩に恵まれ、失敗しながらも 何とか日々の仕事をこなしていけるようになりました。訓練校で習ったことが大きく役立っているのはもちろんのこと、検定にパスしたということは、私に一つの自信を与えてくれました。ただ、現在の職場が税理士事務所であるだけに、簿記能力のみならず、私の知識を要求されるので、まだまだ半人前の私には少々、荷が重いのです。

子供を抱えて働くということは、物心両面ともに大変ですが、職場の皆さんの理解といたわりに支えられここまでやってこられました。でも、もしあの時、訓練校のことを知らなかったら現在の職場は得られなかったでしょう。職業訓練を受けて本当に良かったと思っています。今の仕事は事務をとるばかりでなく、顧問先へ出かけて行くことが大きなウエートを占めているので、今後の課題は自動車の運転免許を取得することです。今年中には取得したいと思っています。

子供の成長を楽しみに

〔30才 トレーサー〕

んびりした主婦専業から、お勤めし始めたのは、私が27才、子供が3才の時でした。そしてその時が離婚した時でもあります。すぐにでも働かねばなりませんでしたが、子供の保育のこと、そして私の長い間のブランク、それが一番気がかりでした。幸い、会社の中に保育所のある所を市役所の民生委員の方に紹介して頂き入社しました。特別、仕事に不満もなく、人間関係もよかったのですが、給料が安かったこと、祭日出勤、そして、朝七時前から家を出なければいけなかったこと等を考え、転職を考え始めたのがちょうど1年目でした。転職するのなら1才でも若い方がいいだろうと思いましたが、自分には取り立てて資格も技術もなく、こんな状態で転職しようと思っても自分の考えているような会社に就職できるはずがありません。あせっている時に、友人の勧めで、職業訓練校を知りました。3月で会社を辞め、立の保育所へ子供の入所申込をし、自分も訓練校の試験を受けました。

4月1日から子供は近所の保育所に通園し、私も4月5日から、職業訓練校の機械製図科に入校することになりました。しかし、生活の方は、訓練手当だけでは、月に3～4万足りません。足りない分は、送金される養育費や貯金でカバーし、両親が来るたびに、何やかやと必要なものを買ってくれるので助かりました。少ない貯金は減る一方でしたが、そんな一時的なことより、今後いくらかでもその分は取りもどせるし、自分の一生を通じてできる仕事を持つ方が少なくとも以前のように不安にならなくてすむし、生きてゆく自信につながるんじゃないかと考え1年間頑張りました。

機械製図科を選んだ理由は、場所が近くだったことと、割と細かい事をするのが好きだったというだけで、やってみなければいいのか、できないか解らないという位の気持でした。入校する前の説明では、トレースの勉強ができると言われたので、女子だしトレースでもやろうと思っていたのです。しかし実際に訓練を受け始めると、トレースは検定前2週間程度しかなくほとんどは、設計、工作、力学、実技等苦手なものばかりで最初、1年間やってゆけるのかと不安でいっぱいでした。

私はトレースの道に進むのに、なぜこんな難かしいことばかり勉強しなければならないのかと毎日思っていました。その上、年に5、6回のテスト。ぶつぶつ言いながらも、割と負けず嫌いなのでテスト前には、子供を寝かしてから2時、3時頃まで毎晩勉強しました。

就職の時期になり、先生から、トレース専門の会社を紹介され見学に行ったり、あるいは大企業からの募集等もありましたが、自宅から自転車で5分とかからない、金型では大きな会社に入社が決まりました。そして早や1年になろうとしています。仕事の内容は、設計、製図の見習いです。自分の描いた図面で、出来上がってくる現物を見ると、子供を産む事のようにうれしくてたまりません。失敗の多い毎日ですが、上役の人達も男性と同様に扱い教えてくれるので幸いです。これからも、もっともっと機械のこと、設計のこと、工作のこと、いろいろ一つ一つ覚え、技術向上を目指しています。そうする事で会社の役に立てて、自分も仕事をもっともっと楽しくなると信じているから。子供も背がぐんと伸びて、つくしん坊の様です。今年から小学生。毎朝「早く！早く！」の号令で二人の一日が始まります。

訓練を受けての反省

〔31才 一般事務員〕

1年1月、28才で離婚、4才の娘を私が引き取り田舎の両親の元へ帰りました。遊んでいるわけにもいかず、かといって田舎に私の働く所はありませんでした。子供と別れて暮らすことは、本当に辛いことでしたが子供を両親に預け、都市に出て私はアパート住いをしながらある会社に就職しました。仕事の内容は調理補助という主に食器を洗う仕事です。安定した職場、安定した収入がありましたので子供に少しずつ送金しながら、毎月2回位の割合で会いに帰りました。しかし、この会社は、時間の不規則な職場でしたので子供を引き取れる見込みはありませんでした。何とかそのような条件の可能なところへ就職したい、そのためには、せめてソロバンでもできたらと気持ちが焦っていました時、訓練手当を受けながら技能取得のできる職業訓練校を紹介した新聞を見ました。さっそく職業安定所へ問い合わせましたところ、よくにも経理事務科とブロック建築科があるとのこと、さっそく入校の手続きを取りました。月平均8万円の訓練手当と交通費を頂きましたので、今まで通り子供に送金を続けながら生活できました。入校生33人中若い方がほとんどで男子の方、年輩の方、私と同じような境遇の方、それぞれ立場は違っていますが目的は同じでした。科目は、簿記、珠算、商法、タイプライターと5科目あり、朝8時30分から、午後3時35分まで、訓練期間は一年間でした。昭和38年に中学を卒業して以来10数年間、鉛筆など握ったことのない私にとって授業は本当に難しいものでした。問題集を前に、鉛筆を握った手が全く動きませんでした。先生に解らない箇所はと聞かれても、解らない箇所が解らないのですからお話しになりません。そして約半年間テレビを見

る気にもなれず、アパートに帰ってからも1日平均約5時間位机に向かいましたが、解らない問題集を前にただ徒らに時間がたつばかりでした。4月に入校して6月には、簿記、珠算とも3級の検定試験があり、のどちらも不合格でした。そんな中で私も一時私の来る所ではなかったと後悔したこともありましたが、周囲の人達に、訓練校へ入校します、卒業しますと吹聴しました手前、また、子供との生活がかかっており、やめるわけにはゆきませんでした。それでも優秀で親切な仲間の方達、大学生の妹をつかまえて教えてもらった結果、何とか、簿記、珠算で2級の資格を得ることができました。息つく暇もなく1級の検定試験も控えておりましたが、これは、能力の限界を感じて受けませんでした。職業訓練校だけあって授業の内容は本当に難しいものだったと思いましたが、反面、学生生活の経験のない私にとって、仲間の方達との研修旅行等楽しい思い出も残りました。

さて卒業の段になって、就職難の今の時代に私のように学歴もなく子供を連れた30過ぎの女が無事就職できるものかどうか不安でした。悩む暇もなく安定所へ行き数少ない求人広告の中からとにかく数当りければと思って次々と面接を受けた結果現在の会社の方が、私の立場を理解したうえで一般事務員として正式に採用してくれました。その上職場の二階が住宅になっていましたので、子供も小学1年生になっておりましたし二学期から引き取って親子二人暮せるようになりました。事務の経験の全くない私にとって経理事務を習ったことでどの科目がどの部分に役立っているのか目には見えませんでした。まず、ソロバンを自信を持って使えた反面、何桁もの数字に対する馴れ数字を書くことの練習を真面目にやっておけばよかったこと等を反省しています。現在、礼儀作法、電話の応対、仕事の流れをは握すること、人間関係等苦勞はありますが、このような会社に就職でき子供を

引き取ることができました。今の仕事が私に出来る出来ない、適している、いないは別として職業訓練校を卒業して本当に良かったと思います。

一人になって

〔32才 調理士〕

私は二年前に夫と離婚して実家へ帰って来ました。現在小学校二年の一人息子は私が引き取り、暫く実家で静養した後、スキー場の民宿で調理の手伝いのアルバイトをしていました。しかし、実家は弟が家を継いでおり、いつまでもこのまま実家の世話になっている訳にもいかなないので、何か資格をとって経済的に独立したいと考えていたところ、アルバイト先の民宿の奥さんが、地元の職業訓練校の調理科を修了して調理師の資格を持っておられ、私のような小さな子供のいる寡婦には訓練期間中訓練手当も支給されるということを教えて下さったので、早速訓練校に問い合わせ、安定所を通じて手続きをして、スキー場の民宿のアルバイトの終わった4月から、10月までの半年間、訓練校の調理科で勉強することになりました。

入校して感じたことは、今までの生活とは一変して学生時代に戻ったような若々しい気持ちになったということです。実家に戻って来てからは、今までの友人とも別れ寂しい気持ちで過しておりましたが、学校に行ってから毎日毎日顔を合わせているうちに親しい友人もでき、私の気持ちもだんだん和らいで、離婚という暗いイメージが徐々に薄らいでいったようです。そして受講生の中に私と同じ寡婦の人も一人おりました。彼女は御主人に病死され、やはり今後資格をいかした職に就くために訓練校に入校したのでした。そして修了後は子供さんを連

れて実家に戻り、そちらの保育園の調理士として働いていると聞いています。寡婦という同じ立場にあったので、彼女と私は子供のこと、就職のこと等について話し合うこともありました。

調理科の訓練期間は6ヶ月でしたが、その間に基礎的な勉強から実技まで、びっしりとカリキュラムが組まれているので覚えきれない所もありました。できれば1年間位ゆっくりと勉強をしたかったと思います。おまけに私が高血圧のために7月から1ヶ月間倒れてしまい、家で寝ていたものですから、その間の勉強の遅れもありました。そんなこともあって途中で挫折しそうにもなりましたが、訓練校の先生や友人の励ましもあって、とうとう修了証をいただくことができました。

私は現在、訓練校で習ったことを活かして、レストラン兼喫茶店に勤めています。

今、私は職場でも良い人達に囲まれ、楽しく生活しています。今後、時間的にも余裕が出てきたら、洋裁の勉強もしてみたいと思っています。離婚したばかりの頃と比較して自分自身がとても明るくなり、希望がもてるようになったことに気づき、とても嬉しく思っています。主人と別れて一人で子供を育てて行くのは本当に大変な事だと思います。まだまだこれから苦労すること多いと思いますが精一杯頑張りたいと思っています。

訓練の日々の思い出

〔 33才 会計事務員 〕

私が寡婦に対する職業訓練制度があるということを知ったのは、別居して間もない頃でした。これからどうして職を捜そうか、どの様に生活して行こうかと迷っていた私にとって、この様な制度があるとい

う事を知っただけで、目の前が明るくなった事は事実です。そこで正式に離婚の手续を取り、身の回りの整理もついた、52年3月職○で申請に行きました。係の方も良く教えて下さりすぐ寡婦証明や写真等の必要書類を作成し申し込みました。でも、今年是不景気なので、希望者が多数いるから入れない場合もあるとのことで半ば諦めかけておりましたらヘガキで説明会の知らせを受け、4月12日、県立の高等技能専門校経理事務科へ入校できました。

それからは、毎日毎日訓練の日々が続きました。何しろ和文タイプの機械等見たこともなかったし、機械も古かったので故障しがちで毎日悪戦苦闘の連続でした。3才になった子供は母親が就労していないとの理由で保育所へ入れないので、年取った両親に預け、皆が病気になるようそれだけが心配でした。それまでは、親のすねをかじっていた私も、訓練手当の支給を受けられるようになりましたし、クラスの人達が皆、各々に、色々な境遇の方達ばかりだったので日が立つにつれて、一丸となり、一人一人の悩みや心配事を打ち明け合ったりして、和気あいあい、今までにない心の安らぎを得られる生活を送ることが出来ました。簿記・タイプ・珠算の検定試験の前には、皆遅く迄残って勉強し、今、振り返って見ると、まるで狂気じみていた位、必死に訓練を受けました。おかげで各々、二級に合格する事ができました。就職に際しては、職安の方も親身になって色々捜して下さいましたが、結局結婚前に勤めていた病院の事務に再就職しましたので、残念ながら一生懸命習ったタイプも簿記も、現在の仕事上には活かしきれません。珠算だけは、毎日使うので訓練を受けて、良かったと思っています。でも、この6ヶ月の訓練のおかげで、一時期主婦として、家庭の中へこもってしまった私が、再就職するに当り、仕事への認識を再確認し、仕事の感覚を取り戻せたことと、訓練期間中に巡り合えた人

々と、再就職に対する心構えや今後の生活のあり方を話し合う機会を持てたことに心から感謝するとともに、これからも、もつともつと努力して、更に良い仕事を得る為の踏み台にしたいと思っています。

今後、子供の養育や、生活において、寡婦として種々困難や問題が起ってくると思いますが、その度に、あの暑い夏の日、汗を流して訓練に励んだことを思い出して、頑張って生きて行こうと思っています。

職業訓練を受けて得たもの

〔 31才 会計事務員 〕

私が職業訓練校を卒業したのが52年の12月。丸1年と少したちました。卒業後すぐ今の会社に就職し、現在経理課の会計を担当しております。最初からいきなり金庫番を命じられ、当初は戸惑うことも随分ありましたが、近頃ではどうにかやりこなしております。それというのもやはり訓練校で半年間簿記の勉強をしたおかげだと思ひますが、訓練校で習った簿記と、実務上のそれとでは随分方法の上で違いがあり、会社独自のやり方に慣れるのに時間を要しました。しかし、基礎知識を身につけていたという点では、後々まで助かりました。

訓練期間中の生活はどうであったかと申しますと、当時2才になる子供は保育園に預け、規則正しい生活を身につけさせることができ、私は安心して勉強に没頭することができました。しかし、家庭での予習・復習の時間を捻出するについては、昼間離れている子供とできるだけ接触を持ってやらねばなりませんし、苦勞しました。

家計の方は月々七万円余りの手当をいただき、また子供の養育費、

実家からの援助などで何とか維持して行くことができました。周囲の理解と援助があってこそ初めて成立つ我家の生計です。この状態は今（ ）わりありません。女一人で子供を養って行くに十分な報酬を得られる職場は、地方都市では見つけ難いようです。

さて、就職して一年たった今、振り返って見ますと、訓練校に通って得た知識が、多少なりとも現在の仕事に役立っていること、また知識だけでなく、半年間の思いがけない学校生活で机を並べた友人たちの知遇を得たことなどプラスの面がたくさんありました。反面、小手先の知識は身につけたけれど、決してエキスパートではあり得ない、そんな限界も感じます。

これからの課題は、今までに得た知識を、更に深く掘り下げ、経理マン（ウーマン）として、自他共に認められるように努力していくことです。

子育てに苦勞しながら

〔 25才 会計事務員 〕

私は、ある会社の経理をしている25才になる寡婦です。

簿記の意味すらよく解らないままに、訓練校の試験に合格し、その後、面接を受けるために、訓練校への坂道を登った日のことが昨日のこのように思い浮かびます。今、思えばあの坂道は、そのまゝ、私の人生における一つの大きな坂道でもあったのです。

何年も考えて、望んで入った子供と二人の生活とはいえ夫と別れてからの具体的な生き方を何一つ考えないまま、実家に帰りました。そのころ1才半の子供は、人見知りの烈しい神経質な子供でした。環境の変化におびえ、玩具一つ自由にならない生活に、ヒステリックな泣き声

をあげる子供を叱りながら、20何年かの自分の生き方を振り返ってみても、生きるために必要なお金すら得る手段がないのです。

仕方なく、託児所付きというだけの理由で選んだ心にそわない^{（？）}につき、泣いて嫌がる子供を託児所に預け、後髪引かれる思いで勤務する毎日を過ごしました。

しかし、子供が保育所に入れるようになったのを機会に今までの勤めをやめて職安に行き、そこで一枚のポスターを見ました。

職を捜す私の前に立ちふさがる簿記及び珠算3級の資格。保育時間に合う事務員の仕事はいつもこの資格の欄でダメになるのです。資格さえあれば、そう考える私の目に、飛び込んだポスターの内容をのぞき込んで尋ねる私に、係の方が親切に説明して下さいました。私の不安は、職安からの手当だけで生活できるだろうかということでしたが、面接を終えて帰る私に、声をかけてくれた一人の女性と話しているうちに彼女も同じ境遇の人だと知って迷っている彼女を励ますつもり^{（？）}の言葉がそのまま、私の決心となったのでした。通学も楽しいものとなり、初めて習う簿記も先生の魅力ある考えに引き込まれ、難しい^{（？）}の^{（？）}思っても辛いとは思いませんでした。家に帰っての2時間の勉強も生きがいとなり、子供もこの頃から、少しずつ明るさを取り戻し、夜、勉強を始めるようになってからは、「お母さん、僕一人で寝るから早く勉強しんさい。」と一人でさっさと床につくのです。3才を過ぎたとはいえ、今までのこの子を知っている人なら誰もが驚くことでしょう。誰にでもなれる扱いやすい子に変わったのもこの頃からでした。

下は19才から上は57才と年齢も生き方もさまざまな仲間とも親しくなるにつれ、色々なことを教わり、同じ境遇のもっと大変な人が何人もいることを知りました。新しい友人と尊敬する師を得、目的であった資格は、珠算・簿記とも2級を手にし、入校して良かった、心

からそう思いながら卒業できました。心配していた生活費も訓練手当と、児童扶養手当でまかなうことができました。不況で心配された就(も)先生方や職安の人達の力で、卒業後、一週間で決まり、学校で習(した)ことが、ほとんどそのまま活かせる職に就くことができました。実務の責任の重さをかみしめながら、資格を取ったことで、学歴に対する劣等感もうすれ、これからの長い人生を胸を張って歩んで行けそうです。

最後にこの制度を一人でも多くの人に知ってもらうことで、お世話になった皆さんへの感謝の気持ちに変えたいと思っています。

タイピストの資格を修得して

〔36才 タイピスト〕

52年春、職もなく、また、特別資格も持たない私は、この先何とかなるだろうと思いつつもあせりの気持ちで毎日を過ごしていました。そんな時、新聞で母子家庭を対象に訓練手当を受けながら修得できるタイピストの記事を読み、すぐ職安へ出かけてみました。試験を受け何とか訓練校へ入校することができました。手当を受けながら習えてその後軽印刷会社への就職が決る、これは一石二鳥とばかり飛びついてはみたものの、果たして自分がこの仕事に向いているのか、タイピストとして一生この仕事をするのか等考える余裕もありませんでした。とりあえず就職することが先決問題でしたので通う事にしました。その時子供は2才、幸いに保育所へ入所出来ましたので、朝連れて行き、夕方迎えにと云う生活が始まりました。また生活費の方も訓練手当がありましたし、特別なことを望まない限りは困るような事はありませんでした。

3ヶ月の訓練期間を終え、保育所の関係もあるので家から近くの会社を選び面接、就職することができました。3ヶ月という短い期間にタイピストとしての基礎をばたばたとつめこまれ、確かに中見のいものでしたが、実際に仕事に入ると第1日目から戸惑うことばかりでした。訓練中はカーボン紙を入れ印書ばかり打っていましたので、テープの取りつけ方も知りません。もちろん清打用紙など一度も打っていませんでしたので、原稿が来る度にときどきしていました。入社当時タイピストは私1人でしたが、去年の夏頃から4人に増え、経験豊かな彼女達に教えられることばかりでした。この頃自分の実力のなさを痛切に感じていやになりやめたくなつたのは事実です。でもこの就職難の折、またこの年齢でそんなに働き口がある訳ではありません。訓練中タイピストは根気がなければだめと何回もいわれたことを思い出しました。あせっても急に上達するものではないと思い直し、周囲の人も良くしてくれましたので頑張ってみることにしました。学生時代の勉強不足がたたって言葉によって漢字の使い分け送りがなと字がこんなにもあったのかと日本語の難しさに、今さらながら驚いています。人間面倒なことはさけて通りたいのが常ですが、この年齢で勉強できた事は感謝しなければならないと思います。私にとってこの機会がなければ今後一生こんなに活字に向かう事はなかったでしょう。

仕事を終え保育所へ迎えに行くと子供が「お母さん」と元気よく飛んで来ます。帰り道、歌を歌ってくれたりお話をして疲れも忘れるひと時です。

離婚、そして母子家庭、子供が一番の犠牲者だという事は十分分ります。昨日よりも今日が良いことを願って自分で選んだ道ですから母親がしっかり生きれば子供もそれなりに分ってくれると信じています。子供はのびのびと大きく育ってほしいと思います。私もタイピストとし

て一人前になるのはこれからで、学ばなければならないことが多くあります。

現在、曲がりなりにもタイピストとして生活できるようになったのも、良い時に訓練の機会を与えて下さった訓練校をはじめ、お世話になった皆様のおかげだと心より感謝しております。

検定試験合格の喜び

〔 39才 一般事務員 〕

私が主人を亡くしたのは、今年小学校に入学した子供が、お腹にいる時でした。子供が生まれてからは、主人の両親に何かとお世話になっておりました。子供が2才になった時保育園に入園して手が離れてきたので、家で出来る仕事をと縫製の内職を始めました。しかし、最近はこの不況と重なって、仕事が少くなり困っておりましたところへ母子福祉協力員の方から、「訓練校で事務の勉強をして、事務員として働いてみたらどうか。」とお話がありました。それに月謝は無料で訓練手当が預けるということでした。一生懸命遅くまで内職を頑張っても、月2～3万円足らずでしたので、思い切って内職をやめ、入校することに決めました。

中学を卒業して何年かぶりの勉強は、とてもつらく大変でした。訓練期間は6ヶ月です。高校生が3年間でする勉強を半年でするのでから、それは大変で、皆について行こうと一生懸命頑張りました。子供は母にまかせきりで、夜の11時頃まで勉強しました。その結果、珠算と簿記の検定試験に合格し、母も赤飯を炊いて、一緒に喜んでくれました。

この感激は、今でも忘れられません。一生忘れたいと思います。

頑張っ てよかったと…………。

私の場合は、訓練校が歩いて二、三分と近かったのと、子供を世話してくれる母がいたことでほんとうに助かりました。

幸い、修了と同時に現在の戦場に就職することができ、訓練校で修得してきたことがすぐに役立っています。今では、仕事の方もどうにか慣れてきました。こうしてお勤めできたのも福祉の方や訓練校の先生方のおかげと感謝しております、そして今はただ会社のため、家庭のため、うまずたゆまず時には息ぬきもして楽しく生きて行きたいと願っております。

新しい生活に向かって

〔 28才 会計事務員 〕

私事が、お役に立つかわかりませんが、半年間簿記を学ばせて頂いたお礼になるかもしれないと思い、手記を引き受けました。

私は、毎日育児だけが仕事の主婦でした。ところが、突然諸々の事情があり、不本意ながら、離婚となってしまいました。気持の整理もつかぬまま生活の為、職探しを始めましたが、2才半の子供連れでは、なかなか思うようにはいきませんでした。

暑い中、自転車に子供を乗せ、新聞、知人の紹介等で、何カ所か当たりましたが、今さらながら、世の中に冷たい風に当たった思いがしました。

そんな折、職業安定所で色々と話をしていたら、担当の方が、良い制度がありますよと親切に教えて下さいました。最初、お金を預いて、月謝は支払わず勉強できるなんて、信じられませんでした。が、あなたの場合、気分転換にもなりますよと勧められ、目の前が明るくなった思いでした。

学校なので、時間割により、昼迄ということもあり、子供は知り合いに頼んで預けましたが、できるだけ子供という時間を長くするようにしました。初めのうちは、毎朝泣いて、追いかけて来るので、とてもつらく学校へ着いてもどうしているかとよく電話をかけました。

急な環境の変化を強いられたため熱を出したり、そそぐをしたり、はしかにもかかり、そんな時は早引きしました。

しばらくすると、子供がじっとがまんしている様子がうかがわれ何ともふびんでその度に、がんばらなければと思い直し、勉強しました。また、訓練手当は、月遅れになるので、預金を引き出し暮しました。手当の額は、けっして多くはありませんが、上を見ればきりがなく中小企業の高卒女子初任給手取りと大差なかったと思います。せつかく頂いたお金なのでできるだけ節約し、何か臨時の出費の時は、預金を引き出しました。

学校は、中高年の方がほとんどで、会社の内情に詳しく、質問も活発で、実際に役立つ生きた勉強ができたと思っています。

友達も出来、はげまされ、半年間あつという間に過ぎてしまいました。卒業式も近くなり、就職先を探すことになり、履歴書に、色々と資格を書いて行きましたら、来て下さいと2ヶ所から言われました。

訓練を受ける前に比べ、気持ちゆとりもでき、現在は、会社の經理を任され、わからないと、教科書を出してみたりします。いくつになっても、勉強するということは、良いことだと思いました。

今、子供は、元気に保育園へ通っています。この半年間、離婚という大ショックを受けた私共母子にとって、次(会社勤めと、保育園)への準備段階として、貴重な期間でした。

一人でも多くの方が、この制度を利用して気持ちを軽くし、立ち直れることを祈っております。